

景況レポート

2月分 情報連絡員80名

景況DI値は過去最低値を記録

～製造業・非製造業ともにDI値は下降～

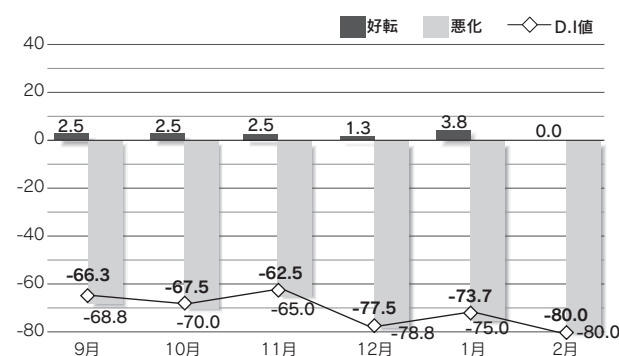
景気概況

2月分の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが0.0%（前月調査1.3%）、「悪化」が80.0%（同75.0%）で、業界全体のDI値は-80.0となり、前月調査と比較し6.3ポイント下回った。この結果、全体のDI値は、過去最低の数値を記録した。

内訳として、製造業全体のDI値は-84.4で前月調査（-81.3）に比べて3.1ポイント下回った。また、非製造業全体としてのDI値は-77.1で前月調査（-68.7）に比べ8.4ポイント下回った。

（回答数：80名 回答率：100%）

業界全体好転悪化割合 [前年比/同月比]



※DI値とは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員	【天気図の見方】 前年同月比のDI値をもとに作成しています。 【凡例】
製造業							
非製造業							

業界の声

味噌醤油製造	1月分の出荷量は、前年同月比で味噌が76.2%、醤油が80.3%と大きな落ち込みとなった。
製 麵	輸入小麦の値下げが報道されたが、今までの価格上昇分を転嫁できないメーカーもあり、すぐには製品価格を下げる状況にはない。
清酒製造	1月分の清酒出荷量は1,190kℓで、前年同月比101.7%で推移した。タイプ別では、吟醸酒が前年同月比で110.7%、純米酒が97.9%、本醸造酒が96.2%、レギュラー酒が102.5%で推移した。
繊維・同製品	小杉産業やトミヤアパレルなど大手メーカーの経営破綻が相次ぎ、業界全体の業況は悪化している。店頭販売は相変わらず不振で、各社共に仕入れに慎重な姿勢が伺える。
木材・木製品	原木市況は、製品の不況に連動して材の荷動きが鈍く、在庫を抱えている企業が多い。価格も低下しており今後も不透明な要因が続くことが懸念される。
窯業・土石	生コン価格は、昨年4月からの原材料価格のアップ分を価格に転嫁できず、資金繰りにも影響している。来年度の出荷計画数量については、大幅な下方修正を行う予定。
自動車販売	2月の新車販売台数は、登録自動車が1,357台（前年同月比66.7%）、軽自動車が1,644台（同89.2%）で、合計3,001台（同77.4%）で依然低調に推移している。
石油製品	ガソリン1ℓ当たり108円で前月比5円の引き上げ、軽油は1ℓ当たり97.6円で前月比1.4円の引き下げとなっている。灯油（配達込み）は、18ℓ 宅配で1,220円で6円の引き下げとなった。ガソリンの仕切価格は上昇しているが、軽油・灯油については下げ基調にあり、マージンの確保が厳しい状況が続いている。
商店街	売上高は前年同月比10～15%の減少で、資金繰りや収益確保が厳しい状況にある。自転車の利用が多く、組合が運営する駐車場の駐車台数が減少し、組合運営も厳しい状況にある。[秋田市] 買い控えによる売上の減少は依然続いている。春の新入学等に併せて、多少動きは出てきた感じはするが、全般的に消費動向は弱い。[大館市]
一般建築	建設業の公共予算削減により、新事業・新業態への進出が叫ばれているが、補助率が低く、思うように進まないのが実情である。
トラック	2月の荷動きが最悪の状況となり、関東便でも帰りの荷物がなく、1日待ったり、車輛の半分を積んで帰って来るといった状況もある。軽油は下げ基調にあり、今後、運賃のダンピングが懸念される。